

楽只だより

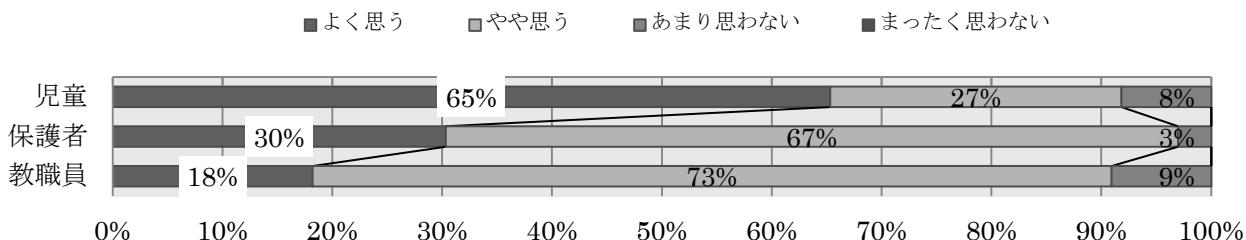
前期学校評価 結果と考察

平成26年11月4日発行

京都市立楽只小学校 TEL451-0044 FAX441-5028

URL <http://www.edu.city.kyoto.jp/rakushi-s> e-mail rakushi-s@edu.city.kyoto.jp

①学校生活「楽しく学校へ行っている」

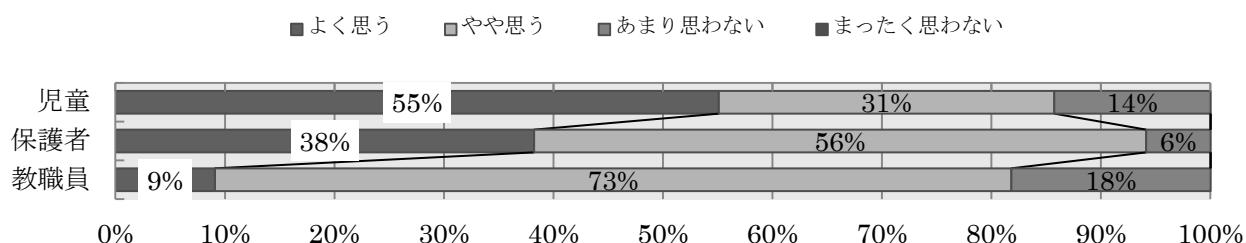


児童、保護者、教職員の三者とも、「思う」「やや思う」の割合が90%以上となっており、概ね学校生活について満足していると思われます。

昨年度末の評価と比較すると、児童の「思う」が約10%高くなっています。このことは、本年度の児童の様子にも表れています。今年度、全員が真面目に授業に向かう姿が見られ、各学級とも落ち着いています。一方で、保護者の「思う」の割合が減り、「やや思う」が増えていることは気になります。また、児童の「まったく思わない」の割合が若干高まることは、大変気になります。学校は、児童にとって居心地のよい場所でありたいと考えているので、「楽しくない」と思う要因を聞き取る努力が必要です。そのためにも、個人面談（「ほっこりトーク」）を設け、学級担任と子どもがゆっくりと安心して話せる機会を積極的につくりたいと考えています。

また、保護者や地域の方に学校生活の中で児童の活躍している姿をより分かりやすくお伝えできるよう、ホームページやお便り等、発信の工夫が必要であると考えています。

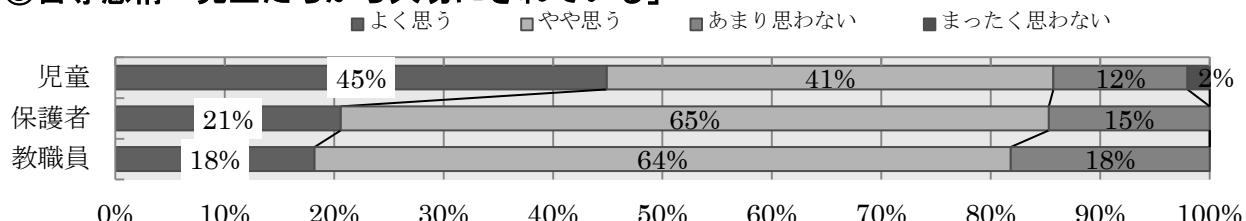
②人権「友だちを大切にしていますか。」



保護者の「思う」「やや思う」の割合は、昨年度と同様に90%以上となっていますが、児童の「あまり思わない」の割合が10%以上増えています。児童が自らの行動を振り返り、反省している証ともとらえることができます。

自分たちの行動が「友だちを大切にしている行動になっているか」と振り返る力も大切にしつつ、全教職員で児童理解に努め、子ども同士の人間関係の把握をしていく必要があると考えています。縦割り活動や委員会活動、クラブ活動、部活動などのさまざまな場面で、子ども相互のつながりを支援していきます。

③自尊感情「先生たちから大切にされている」

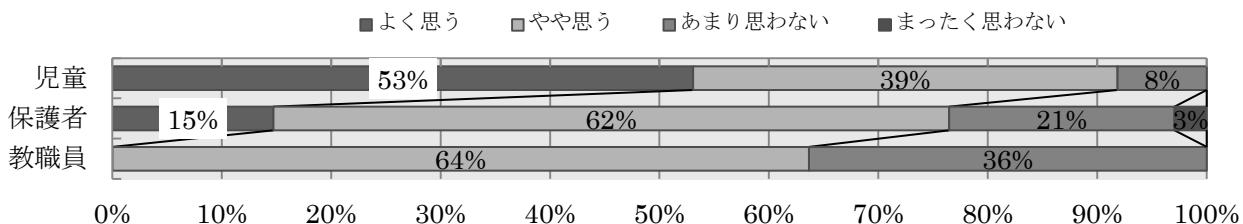


児童・保護者ともに「あまり思わない」「思わない」が10%以上あることを、学校として大変重く受け止めています。本校の学校教育目標にも掲げている「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」ということが、実践できているかを、今一度全教職員で検証し、徹底していかなければならないと考えています。

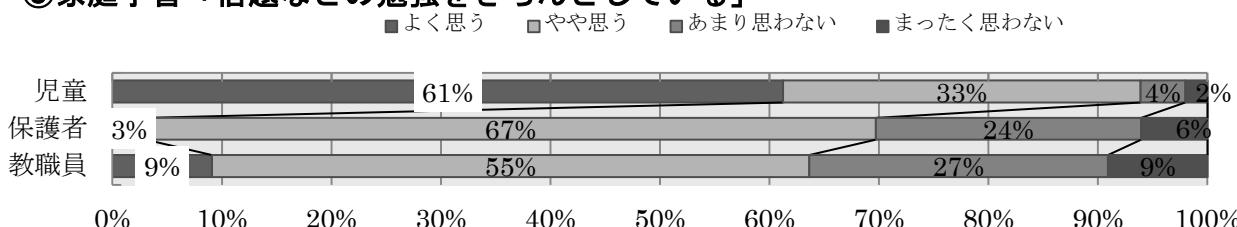
そして、子ども一人一人が大人や友だちなど、あらゆる人間関係の中で大切にされているという実感をもち、安心して自分の力が發揮できる学級づくり、学校づくりをしていきたいと考えています。

また、地域の力を借りて、多くの方々の言葉から「自己有用感」を得ることもできます。本校では、地域の福祉施設との連携や配食ボランティア・長寿のつどいに代表されるように、子どもたちが地域の中で活躍できる場面をいたしています。このような場面で、地域の方に声をかけてもらう、ほめてもらうという経験ができるので、今後も効果的に取組んでいきたいと思います。

④授業改善「勉強はよくわかる」



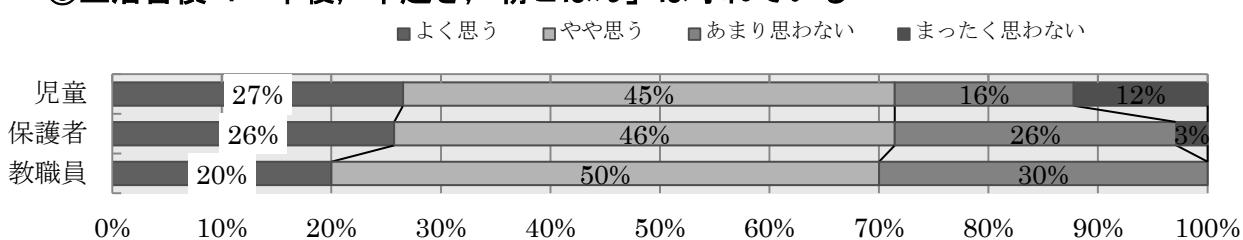
⑤家庭学習「宿題などの勉強をきちんとしている」



④⑤どちらの項目においても、児童の「思う」の割合が昨年度よりも高くなっていますが、保護者の「思う」の割合は低くなっています。家庭で、子どもたちの宿題や学習の様子を見ていただいている割合が高くなってきたことが、この評価につながっていると考えています。しかし、「あまり思わない」「思わない」の児童の割合は、依然としてあまり変化が見られません。これは、個別の課題であると捉え、チャレンジタイムや楽只っ子タイムなどの個別の課題に合わせた指導の時間を充実させることで、確実に学力の向上を図っていきたいと考えています。また、授業改善のための取組（若手教員育成授業研究など）も継続していかなければならぬと考えています。

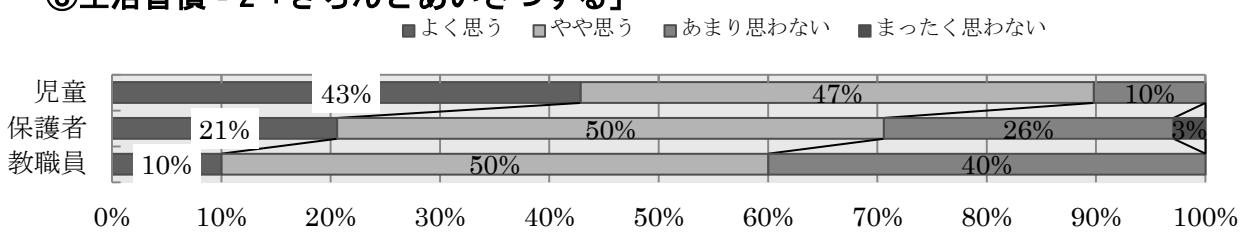
学校での学習内容を定着させるためには、家庭での学習習慣を身につけることも重要です。今後も、家庭学習のさらなる定着に向けて、家庭と学校とが連携を図っていけるようご協力よろしくお願ひします。

⑥生活習慣-1「早寝、早起き、朝ごはん」は守れている



児童・保護者ともに「思う」「やや思う」の割合が約10%高くなっています。毎年課題としてあがっている項目ですが、今年度は、生活習慣の定着が見られます。しかし、一方で、児童の「まったく思わない」の割合が高くなっています。学校としては、保健の学習をはじめ、サンサンさわやかウィークや月1回の「ほけんの日」の指導を通して、児童への継続した啓発活動に取り組んでいきます。学校生活の基盤となる生活習慣の定着に向けて、今後も家庭との連携を取りながら取組を強化していくよう、ご協力よろしくお願ひします。

⑥生活習慣 - 2「きちんとあいさつする」



児童・保護者ともに「思う」「やや思う」の割合が下がっています。今年度の「楽只っ子10カ条」の一つに「自分から元気よくあいさつする」を挙げていますが、朝の登校時の挨拶で、全体的にあまり元気がないこともあります。繰り返し、朝会等でも指導をしているところですが、項目⑥-1と関連させて考えると、基本的な生活習慣を整えることが、気持ちの良い朝の挨拶につながるとも思われます。子どもたちが、1日の始まりを気持ちよく迎えられますよう、ご協力お願いいたします。また、引き続き、地域の皆さんからの子ども達への声かけや挨拶もお願いしたいと思います。

学校運営協議会からのご意見（10月16日 実施）

- 若手教員が多くなる中で、従来通りできないこともあるだろうが、教職員一丸となって、楽只校の教員としてのほこりをもち、良き伝統を守りながら進めてほしい。
- 地域行事等で子どもたちの様子を見ていると、子どもたちが以前よりよく挨拶するようになったと思う。
- 学校での様子が、必ずしも児童館や家庭で見られるものではない。どのような場でも子どもたちが本当の力を發揮できるように、引き続き地域諸団体との連携を進めてほしい。
- 新たな取組として、府立盲学校との交流も考えてみてはどうか。